



かまがわ

第12号
2014.4

ま
い
こ

1. 特集／NICU 新生児集中治療
2. 診療科・中央部門紹介／アレルギーセンター
3. 院内取組紹介／「患者図書室ほほえみ」
開設1周年記念イベント
4. トピックス
5. くすりの豆知識／お薬を上手に飲むために 幼児編
6. 臨床検査の豆知識／尿検査で何がわかるの？
7. 病院からのお知らせ

病院理念

世界トップレベルの医療を地域へ

基本方針

- 高度で安全な医療を提供します。
- 患者様の権利を尊重し、患者様本位の医療を提供します。
- すべての医療人は互いに連携し、チーム医療を推進します。
- 新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します。
- 京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します。

患者様の権利

- 個人として尊重され、平等に良質な医療を受けることができます。
- わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受けることができます。
- 医療に関する個人情報やプライバシーは、保護されます。
- 診療録等に記録された自己の診療内容について、情報提供を受けることができます。
- セカンドオピニオン（他の医療機関等の意見）を希望される場合は、紹介を受けることができます。

N I C U

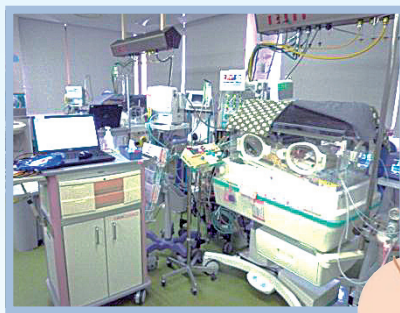


～集中治療を必要とする赤ちゃんのご家族のための病棟です～

NICUとは？

Neonatal intensive care unitの略です。NICU19床のうち、新生児特定集中管理料を算定する6床、GCU(Growing Care Unit:継続保育室(小児入院医療管理料4を算定))13床を有する地域周産期母子医療センターとして地域医療に貢献しています。

NICUと分娩室は、扉を開けるとバリアフリーでつながっており、保育器の赤ちゃんがNICUへスムーズに入室することができます。



集中治療

*予定日より早く生まれた赤ちゃんは呼吸障害を発症することが多く、酸素投与や人工呼吸器管理などを必要とすることがあります。脳室内出血をはじめとする合併症にも十分気を配りながら、チーム一丸となって「intact survival(後遺症なき生存)」を目指しています。



*新生児仮死は、順調であった妊娠経過からは予測不可能とされ、発症はいつも突然です。低酸素状態が続くと脳や肺が機能しなくなるため、治療開始は時間との勝負です。著しい呼吸循環障害(遷延性新生児肺高血圧症)には一酸化窒素療法を、脳障害には低体温療法を行い、後遺症を残さないようより良い予後を目指しています。出生直後より赤ちゃんの状態を判断して、それに応じた処置(新生児蘇生法を取得)を行っております。

*お母さんのおなかの中にいるときから、赤ちゃんの心臓や消化管、脳、腎臓などの臓器の病気がわかることがあります。本院では全診療科が揃っているので、生まれる前から病気と関連する診療科の先生と連携しています。出生後は、速やかに手術・投薬などの治療方針を決定しています。

*赤ちゃんの成長はそれぞれ異なりますが、日々成長します。ディベロップメンタルケアが赤ちゃんの心に安らぎを与え、その後の成長に良い影響があることから、看護師が中心となって積極的に行っています。また、看護師はご家族に寄り添って、赤ちゃんの成長を一緒に見守る大きな存在になっています。



▲新生児蘇生法の練習の様子



ホスピタルアート



ご家族の方の癒しとなることを願い、「HAPiiプロジェクト」として、京都造形芸術大学及びNPOのご協力のもと、NICU内外にホスピタルアートが描かれています。

※ 「HAPiiプロジェクト」とは、患者様やそのご家族の方にとって癒しとなる空間を作ることを目的に、壁画の制作等のホスピタルアートに取り組むことです。

周産期診療部 細井部長（小児科教授）

NICUは赤ちゃんのICUです。早産児や低出生体重児、先天性疾患の術前管理など、生まれたての赤ちゃんの救急治療や集中治療を24時間体制で行っています。また、入院中だけでなく、退院後も、赤ちゃんと家族のケアや相談・指導にも当たり、その経験を今後の赤ちゃんの医療とケアに生かしています。



スタッフ紹介

医師（小児科医）

周産期診療部長 小児科 細井教授
 講師(NICUチーフ) 1名
 特任助教 3名
 専攻医、大学院生、研修医
 計7~8名

看護師

看護師長 1名
 副看護師長 2名
 新生児集中ケア認定看護師1名を含む看護師 27名
 計30名

看護補助員

1名
 栄養士 4名が交代で勤務
 クラーク 1名





アレルギーセンターは、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科の3診療科から構成されており、外来棟3階で診療しています。

眼科

月曜日午後と金曜日に、アレルギー外来を行っています。月曜日の午後は、上田真由美医師が担当し、主に、アトピー性皮膚炎の患者さんの眼合併症の診療を行っています。アトピー性皮膚炎の患者さんは、アトピー性角結膜炎、円錐角膜、アトピー性白内障、時に網膜剥離などの合併症が生じます。そのため、眼科では皮膚科医と連携して、アトピー性皮膚炎の患者さんの診療を行っています。また、金曜日は、横井桂子医師が担当し、アレルギー性眼疾患を幅広く診療しています。



皮膚科

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー、接触皮膚炎といったアレルギー性皮膚疾患の診療を行っています。これらの疾患に対して、普段の生活から悪化因子を探り生活指導を行っています。必要に応じて血液検査やパッチテスト、プリックテストを外来で行い、原因検索を行います。また、症状により入院してアレルギーテストを行うこともあります。診察日は月曜日と木曜日で、完全予約制となっています。診療をご希望の方は、はじめに皮膚科を受診してください。

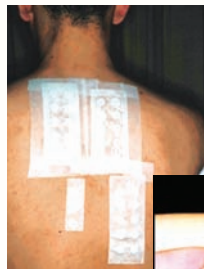


耳鼻 咽喉科

当ユニットでは、アレルギー性鼻炎の治療のなかでも①アレルギー免疫療法、②手術療法に重点を置いて治療を行っています。①は、皮下法という注射で行っていますが、平成26年6月から口の中に投与する方法(舌下法)も保険承認される予定で、治療の選択肢が広がるものと期待されています。②は、外来で日帰りで行なう鼻腔粘膜焼灼術は、学校や仕事で時間の制限がある患者様にはお勧めの手術法です。入院で行なう粘膜下鼻甲骨切除術は、骨成分はもとより鼻炎の原因となっている神経も切除するため、より持続性の高い効果が期待できます。診察日は、月曜日と木曜日で、予約再診となります。鼻閉や鼻漏などの症状に悩んでいる方は、まずは耳鼻咽喉科外来を受診してください。



スリット撮影



パッチテスト



プリックテスト



診察室

患者図書室 ほほえみ

開設1周年記念イベント



本院では、平成24年11月に、患者さんやご家族の皆様に癒しを提供できるよう、「患者図書室ほほえみ」を設置し、昨年11月には開設1周年を迎えたところです。

この間、「患者図書室ほほえみ」は、延べ12,000名を超える方にご利用いただき、貸出図書も延べ5,400冊以上となるなど、大変ご好評をいただいております。

開設1周年を契機に、「患者図書室ほほえみ」の1周年記念イベントを順次開催しましたので、次のとおりご紹介いたします。

ほほえみ川柳

患者図書室や病院で起きる何気ないできごとや雑感を五・七・五で伝える「ほほえみ川柳」を広く募集し、全国から600句近くの応募がありました。



オリジナルカード作り

素敵なオリジナルカード作りを皆様に体験していただきました。

しおり作り

病院ボランティアの協力のもと、イメージキャラクター「ほほえみくん」を使った可愛いしおりを皆様に作っていただきました。



ミニコンサート

ソプラノデュオ「Cuore forte」に素晴らしい歌声を披露していただきました。



ほほえみ新春茶会

患者図書室内でお茶会を開き、本学医学科茶道部のお点前で皆様に一服していただきました。

これからも「患者図書室ほほえみ」が皆様の癒しとなるよう、取り組んでまいりますので、よろしく願いします。

TOPICS

『かかりつけ医を持ちましょう』



厚生労働省は、医療機関の機能に基づいた役割分担を明確にして、それぞれの医療機関が互いに協力して患者さま中心の地域医療を進めようとしています。

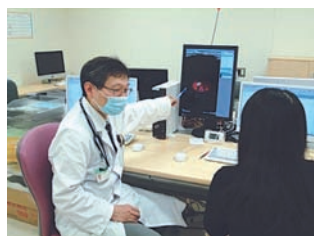
これは、普段の健康維持の相談や、高血圧や糖尿病に代表される生活習慣病などの慢性疾患は、診療所の先生、すなわち『かかりつけ医』が日常生活に密着した診療を行い、専門的な検査や入院が必要な治療は大学病院が行うという、病状に応じた医療機関の役割分担を進めています。

上手に医療機関を使い分けることで、安心して医療を受けていただくことができます。

新総合医療情報システムの運用開始

平成26年1月14日(火)に、カルテ記載や検査データ管理等の業務を行う総合医療情報システムを更新しました。

サーバや端末機等の機器を更新しシステムの安定稼働を図るとともに、患者様へは、会計精算機を5台から7台に増設及び血液検査受付業務の自動化を進め、患者様の待ち時間の短縮を図るなどの業務改善に取り組みました。



合同消防訓練を実施！



3月3日(月)、春の火災予防運動の取組として、上京消防署及び上京消防団京極分団と合同消防訓練を実施しました。

今回、新たに整備した外来診療棟における初めての消防訓練となり、病院の自衛消防訓練に引き続き、消防隊、消防団による救出・放水訓練が行われ、職員の防火意識の向上と火災時における関係機関との連携を確認することができました。



看護師紹介 ～アレルギーセンター～

アレルギー外来は、耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科から構成されています。

耳鼻咽喉科・皮膚科は毎週月・木曜日が診察日です。眼科は月・金曜日が診察日です。

特に、これからの季節は花粉症でお困りの多くの方々に、ほんの少しでもお力になりたいと思っています。





くすりの豆知識

Vol.8

お子さまにお薬を飲ませる方法

- ①お薬を飲む必要性を分かりやすく説明し、飲めたらほめてあげる。
- ②少量の水や白湯とよく混ぜて服用させる（一口で飲める量が目安）。服用後、口の中にお薬が残らないように、水などを飲ませる。

お薬を上手に飲むために
幼児編



それでも飲んでくれない時は、次のような方法もあります

- ヨーグルトやアイスに混ぜる。（ヨーグルトなどの量は1回に食べられる量が目安）
- 苦みの強いものはチョコレート味のものに混ぜる。
- イチゴジャム、練乳、海苔のつくだ煮など、味の濃いものに混ぜる。
- オレオやビスコなどのお菓子の間にはさむ。

※お薬の種類によっては苦くなったり、お薬の効き目が悪くなったりすることもあります。詳しいことは事前に薬剤師にお尋ねください。

臨床検査の豆知識

臨床検査部 連載企画

第4回 尿検査で何がわかるの？



●試験紙法による検査（色の変化で判定する方法）

尿検査では主に、腎臓や膀胱などで異常が起きていないか、タンパク質や糖などがどのくらい尿中に排出されているのかを調べています。代表的な検査方法が右に示した試験紙法です。



検査項目の内容について詳しくお知りになりたい場合は、臨床検査部検査相談室（採血室近く）までお越し下さい。

検査項目	正常	異常	疑われる主な疾患・状態
ウロビリノーゲン			肝・胆道系の疾患
潜血			腎・尿路系の疾患
ビリルビン			肝・胆道系の疾患
ケトン体			糖尿病
糖			糖尿病
タンパク質			腎疾患
pH			体内の酸・塩基バランスの乱れ
比重			脱水症、尿崩症
亜硝酸塩			細菌感染
白血球			腎炎、膀胱炎

※健康な人でも、過度な運動やストレスなどで反応が出る場合があります。



採尿の際には、カップの下から2番目の線（50mL）を目安に採取してください。

病院からのお知らせ



(1) イベント・講座等のご案内

事項	開催日時	内容	参加費	問合せ先
1 歯科公開講座 「第18回 歯の健康講座」	平成26年 4月5日(土) 13:00~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ■歯科検診及び相談コーナー設置。 ■雨宮 傑先生(歯科口腔科学)による講演 講演内容「当院の周術期口腔機能管理について」 ■歯ブラシ等の清掃グッズの展示 	無料	歯科 TEL : 075-251-5043 FAX : 075-251-5045
		会場		
		京都府立医科大学 基礎医学学舎1階	100名	
2 ひだまりサロン ○4月3日(木) 13:30~14:30 「がんに向き合う食事のヒント」 ○5月1日(木) 療養中の患者さんにご家族の 「フリー座談会 前立腺がん」 ゲスト：泌尿器科 沖原 宏治先生 ○6月5日(木) 「緩和ケアについて」 ひだまりサロン For Kids (小児) ○6月19日(木) 11:00~12:00 小児がん 「子どもに伝える時に思うこと」 講師：小児科 宮地 充先生 〈託児あり〉	がん患者様とご家族を対象にした患者 サロンとミニ講習会です。(がん患者様 やご家族が体験を語り合い、情報を交 換する場です。)	無料	がん相談支援センター TEL : 075-251-5283	
				会場
		京都府立医科大学 外来診療棟1階 カンファレンスルーム	20名	

(2) その他のお知らせ

事項	内容	問合せ先
1 きょうだい保育 「ほかほか はらっぱ」	<p>面会制限のある小児医療センター・NICU・PICUに入院している 子どものきょうだいで、親の手を離れることのできる幼児・小 学生をお預かりし、京都YMCAのボランティアリーダーによる 保育を行います。</p> <p><実施時間帯> 基本的に毎月第3金曜日1回、その翌々日にあたる日曜日 に1回。(金曜日は午後4時~7時、日曜日は午前10時~ 12時、午後1時~5時)</p> <p><実施場所> 小児医療センター(病棟)外側の家族待合</p>	京都府立医科大学附属病院 病院管理課 TEL : 075-251-5233
2 小学生近視進行 予防点眼 トライアル	小学生の近視進行を点眼で予防する治療を確立するトライ アルです。2年間点眼を継続し、3か月に1度検査をします。海 外で有効とされている薬と、コントロールをランダムに割 り当てます。月曜日午後の屈折矯正外来で行っています。	眼科 稗田 牧 TEL : 075-251-5578

休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

初診受付時間 午前8時45分~午前11時まで

※再診受付時間は、各診療科にお問い合わせください。

敷地内は全面禁煙としております。皆様のご理解とご協力をお願いします。



京都府立医科大学附属病院

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465

電話 075-251-5111 (代表)

HP <http://www.h.kpu-m.ac.jp>